

府中町ふるさと歴史散策

〔第19回〕

文化財としての地名 ⑤ 近世中期以降から近代の地名

近世中期以降で新しく見られる地名では、国郡志書出帳（文化12年・1815年）などによると、海側では新田開拓に係わる地名が多い。①大須新開（大須二丁目）、②経免・③大樋ノ口（本町二丁目・五丁目）、④鶴江（鶴江一丁目）、⑤入川・⑥三角（大通二丁目・三丁目）、⑦上縄（浜田二丁目）、⑧鵜崎（桃山一丁目）、⑨観音灘（青崎南）などが主なものである。

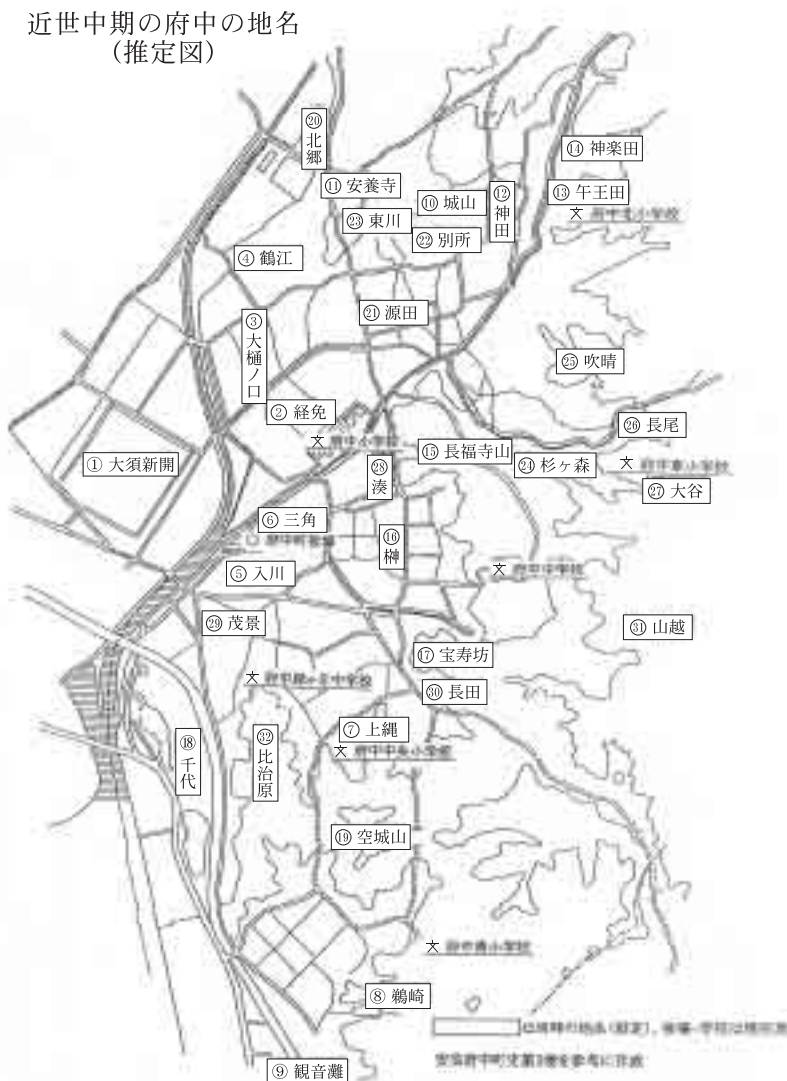
寺院・神社・城などに関係があると思われる名称や地名では⑩城山（石井城二丁目）、⑪安養寺（城ヶ丘）、⑫神田・⑬午王田・⑭神楽田（みくまり二丁目・三丁目）、⑮長福寺山・⑯榊（宮の町三丁目・五丁目）、⑰宝寿坊（浜田本町）、⑱千代（茂陰二丁目）、⑲空城山（鹿籠二丁目）など

がある。その他の小字名では⑳北郷（鶴江二丁目）、㉑源田・㉒別所（石井城一丁目・二丁目）、㉓東川（城ヶ丘）、㉔杉ヶ森・㉕吹晴・㉖長尾・㉗大谷（山田二丁目・四丁目）、㉘湊（宮の町三丁目）、㉙茂景（大通一丁目）、㉚長田（浜田本町）、㉛山越（八幡二丁目）、㉜比治原（緑ヶ丘）などの地名がある。

近代においては、明治時代の地租改正・地券交付などの作業により、政治的に地名が整理されていった。明治24年の野取図に基づいた「字地図」で昭和50年頃まで使われた地籍図によると、38の字と番外1が示されている。その字名を列挙すると次のようになる。大須・経免・大樋ノ口・鶴江・河越・下岡田・上岡田・午王田・

御衣尾・石井城・石井・石田・新宮・大年・引地・長尾・

近世中期の府中の地名（推定図）



大谷・山田・右宮ノ町・上宮ノ町・下宮ノ町・三角・入川・下榊・上榊・松崎・山越・八幡・永田・上縄・大縄・茂陰・千代・鹿籠・鵜崎・青崎・鹿籠山・外新開・番外（後に新地と呼ばれる）の39である。

※文章中の番号は地図中の番号に対応している。

問い合わせ

教育委員会生涯学習課

☎ 286-3272

※（ ）内は昭和50年（1975）以降の新住居表示

府中町文化財保護審議会委員

熊野 俊浩